

今日のみことば

□ 11月12日(日) 民数記 6章

この章はナジル人の誓願について述べられている。この世から自らの意思で神に向かって誓いを立て聖別された者という意味ではクリスチャンは真のナジル人と言える。

□ 11月13日(月) 民数記 7章

幕屋建設に関して、祭司たちにも明確な指示が与えられた。各部族の族長たちに、幕屋のすべての器具、祭壇とすべての用具のささげ物が指示され、それらが聖別された。

□ 11月14日(火) 民数記 8章

レビ人、神に仕える者は徹底的に清くなければならない。水で洗うこと、そみそりを当てることは人を外面的にきよくするいけにえの血は、人の内なる罪の汚れをきよめる。

□ 11月15日(水) 民数記 9章

過越祭は規定通りに守らねばならないが、不時のためにひと月遅れが認められた。荒野における神に導きは、昼は雲、夜は火をもって、見える形でご臨在が示された。

□ 11月16日(木) 民数記 10章

彼らは一年間シナイに滞在した。雲が上がり、銀のラッパが響き渡り、ユダは先頭に立って進軍は始った。この行進の中心は契約の箱である。

□ 11月17日(金) 民数記 11章

三日もたたないうちにタブエラで彼らはつぶやき始めた。不満は彼らの得意技で、神はうずらを送って彼らに与えられたが同時に疫病をもって彼らを打たれた。

□ 11月18日(土) 民数記 12章

モーセの兄弟ミリアムとアロンが、彼の権威をおとしめる行動をとった時、モーセはどれほど苦しかったことか。しかしモーセを弁護したのは神ご自身であった。

ろ ぼ No. 1841
2017年 11月12日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

テモテ第一 4:4

神の創造物はすべて良く、感謝いて受けるなら、捨てるべきものは何もないのです。

神さまは、天地創造の初めから私たちを良いもので満ちあふれさせてくださっています。それは最初の人を受け取っていただけではありませんで、今日の私たちもそのことはしっかりと確認させていただいていることではありませんか。知りながら私たちは、そのことを当然のこととして受け取ってききましたので、感謝も何もありませんでした。

しかし多くの人たちは、それをしっかり大切なこととして受け止めてきました。その思いを、音楽で表した人たちの喜びの歌を聞かせていただく時、私たちは心にしみわたる神の慈しみを覚えさせていただくのです。私たちの心がどこを向いているかは、私たちの日常の生活に現れているということ

ができるのではありませんか。今日ほど世界が混迷している時代はないのかも知れないと思っています。それは高度に文明化された今日であるからこそ言えることであって、素朴な生活をしてきた時代では考えられなかったものだと思います。神さまの慈しみを素直に受け止めることが難しくなってきたのはなぜなのかを考えます。それは私たちが自分たちの生活を少しでも豊かな生活が出来ないかと、考えてきたことによるのです。それは決して責められることではありませんが、そのこと一番大切なものをないがしろにしまいました。神さまが二の次になったということなのです。

神さまがすべてなのです。すべての物を造られた方であり、その際に渡るまでご存じのお方です。パウロは「神の創造物はすべて良く、感謝して受けるなら、捨てるべきものは何もないのです」と言いました。造られたものみんなで、ほめたたえるのです。すべてをほめたたえる歌に、私たちはどれほどの励ましと力づけをいただいていたか判りません。

ダビデは「私は心を尽くして主に感謝を献げ、その奇しき業をすべて語り告げよう。いと高き方、あなたを喜び、祝い、その名をほめ歌おう」(詩篇9:2-3)と言います。ヨブではありませんが、神さまのなさることを理解するのに、ほんとうに戸惑っています。けれどもヨブが告白したように、「知識もなくて摂理をおおい隠す者は、だれか。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。」(ヨブ42:3)と言うばかりの者です。ただただ神さまを見上げさせていただくだけです。

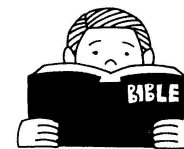
しっかり神さまが造られたものを見つめさせていただくときほんとうに幸せを感じさせていただくのではありませんか。私たちはそのような中に生かされています。今日、神さまをたたえるすばらしい讃美に包まれさせていただきました。この喜びをしっかり分かち合いたいです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

イザヤ 46:1-4 背負い、救い出す神

私はイザヤの預言を通して告げられる神さまの思いを、しっかりと私たちも受け止めることができなければ、同じ道をたどるのでは、と思いいたらされるのです。出エジプト以来、どのように神の慈しみの中にイスラエルは顧みられてきたか、いかなる時も忘れてはならない歴史です。

今日の私たちもまた、同様であると言うのです。イスラエル人ではない私たちには、大変に困難なことだと承知しながら私は、創造の神の慈しみの中にあるのは確かであり、しっかりと私たちが神を神として生きることは必須です。神から離れることは、偶像礼拝はもちろんのこと、神ならざる神に依り頼むとき、真の神の慈しみは私たちから離れます。そこでは悪魔に翻弄される私があるだけです。これまでの苦難を踏まえて神は「わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」と言われます。



Read God's Word.